

調査概要

HCIからDell Private Cloudへ：モダン エンタープライズ プライベートクラウドの戦略的進化

複雑さの軽減、整合性の向上、ワークロード需要の変化に応じたインフラストラクチャの成長のサポート

作成者：

Don Gentile

データプラットフォームおよびレジリエンス担当
常駐アナリスト

Steven Dickens

CEO兼プリンシパル
アナリスト

2月2026日

はじめに:このテーマが今重要である理由

インフラストラクチャチームは、より迅速に行動しながら、安定性と柔軟性を提供することを求められています。コンテナ、データサービス、AI関連アプリケーションなどの最新のワークロードをサポートしながら、コア仮想化環境の信頼性とコンプライアンスを維持する必要があります。一方、ソフトウェアの変更のペースは、ほとんどの組織が手動プロセスだけでは付いていけないほど速くなっています。同時に、ほとんどのチームは、ほぼ横ばいの人員規模でこの多様なワークロード群をサポートするよう求められており、プライベートクラウド基盤のモダナイズに対するプレッシャーが高まっています。

長年にわたり、HCIは明確なモダナイゼーションパスを提供してきました。導入がシンプルになり、統合の摩擦が軽減され、アップグレードに関する予測可能性が向上します。DellのVxRailは、アーキテクチャに関する議論を最小限に抑えながら一貫性のある結果を求めているお客様に特に適しています。

現在、プライベートクラウドに関する議論は変化しつつあります。ワークロードはますます多様化しています。環境全体で自動化が期待されており、プラットフォーム戦略が再評価されています。多くの組織は、大規模な再構築によって混乱を招いたり、単一のエコシステムに即座の成果を求めたりすることなく進化できるインフラストラクチャを求めています。

この調査報告書では、Dellのプライベートクラウドの進化を、現実の状況を踏まえて解説しています。このストーリーでは、HCIの強みを基盤としながら、アーキテクチャの選択肢、自動化、長期的なオプションを拡大していくことについて取り上げます。Dell Private Cloudは、お客様のニーズに応じて進化し、マルチハイパーバイザー環境で混在ワークロードをサポートするように設計されています。また、経済状況の変化や時間の経過の中でも一貫性を保ちます。





HCIの時代: VxRailは何のために最適化されたか(そしてなぜ成功したか)

大規模なプライベートクラウド インフラストラクチャの運用は複雑かつ不安定であったため、HCIはその課題を背景に普及しました。従来の3階層アーキテクチャでは、ITチームは複数のベンダーとツールチェーンにわたってコンピューティング、ストレージ、ネットワーキング、仮想化を統合する必要がありました。パッチ適用やアップグレードなどの日常的なイベントであっても、高リスクで時間がかかる可能性があります。時間の経過とともに、多くのチームがメンテナンスを延期し、技術的負債を蓄積しました。

HCIは、調整された管理とより予測可能なアップデート パスを備えた統合ノードにインフラストラクチャを統合することで、その負担を軽減しました。多くの組織にとって、メリットは実用的でした。

- 導入パターンの標準化
- クラスタ間構成のばらつき低減
- アップグレードとパッチ適用の予測可能性の向上
- インシデント発生時のサポート範囲の明確化

VxRailは、統合されたアプローチを重視するVMware中心のお客様向けに世界中で30万を超えるノードを導入し、このカテゴリーのリーダーとなりました。このリーダーシップにより、Dell Private Cloudは、これらのメリットを、今日のワークロード向けにより柔軟な自動化主導型プラットフォームに拡張するための基盤を確立しました。当社の見解では、HCIはプライベートクラウドをより再現可能で持続可能なものにするので、その地位を獲得しました。プライベートクラウドの要件が高まるにつれて、多くの組織は、柔軟性と効率的な拡張を向上させながら、HCIの運用規律を維持するプラットフォームアプローチを求めています。

何が変わったか: プライベートクラウドを再構築する市場の動向

企業は、もはや1つのワークロード タイプに支配されていません。VMが基本であることは変わりませんが、コンテナ、データ サービス、AI関連のワークロードは、ますます一般的になっています。インフラストラクチャは、コンピューティングとストレージを個別に拡張できるようにしながら、混在リソース プロファイルをサポートする必要があります。ワークロードの多様化に伴い、多くの組織は、すべてのユースケースが将来にわたって単一のスタックに完全に適合するわけではないことを認識しつつあり、長期的なハイパーバイザー戦略を見直す動きも広がっています。強力な自動化とオーケストレーションがなければ、管理の複雑さは急速に増大します。自動化とは、チームが時間の経過とともに拡張および適応しながらシンプルさを維持する方法です。

期待も高まっています。シンプル化は依然として重要ですが、もはや十分ではありません。ITチームは、リスクとドリフトを軽減しながら、より迅速に導入し、より頻繁にアップデートし、クラスター全体で一貫した構成を維持することが期待されています。これにより多くの組織は、ライフサイクル管理、アップグレード、パッチ適用、コンプライアンス検証、制御された成長を含む、0日目の計画から2日目のアクティビティに至るまでのベストプラクティスを体系化した、反復可能なワークフローに移行しています。自動化は、プライベートクラウドプラットフォームのベースライン要件としてますます求められるようになっていきます。

さらに、組織は柔軟性と選択可能性を優先しています。これは、市場全体で高まる総所有コストのプレッシャーとライセンスの不確実性に対する現実的な対応ですが、このことによりプラットフォーム選定の長期的な見通しが立てにくくなっています。こうしたニーズが高まる背景には、投資と需要の整合性を確保するというプレッシャー、エコシステム ロードマップとライセンス モデルの変化、そしてワークロードが常に厳格なスケーリング パターンに明確に適合するわけではないという現実があります。ハイパーバイザーに関する議論にも、現実的なアプローチが求められます。多くのチームが長期戦略を見直していますが、大半は長期的な選択肢を検討しつつも、短期的にはVMwareを中心とした運用を維持しています。現在の安定性を優先し、時間をかけて適応する余地を確保したいと考えています。

Dellの戦略的進化: アプライアンスのシンプルさから分散型プライベートクラウドへ

Dell Private Cloudは、HCIでお客様に評価されてきたシンプルさを保ちながら、コンピューティングとストレージを個別に拡張することが可能です。また、複数のハイパーバイザーとプラットフォーム オプションもサポートしているため、要件の進化に伴うロックインのリスクを軽減できます。Dellは、新しいアーキテクチャをゼロから導入するのではなく、プライベートクラウド ソリューションを、お客様の長年の学習、プラットフォームの成熟度、実証済みのプラクティスに基づいて構築された、確立されたポートフォリオの進化と位置付けています。Dell Private Cloudはその基盤上に構築されており、統合された自動化と、多様なワークロード要件をサポートする幅広いアーキテクチャの選択肢を備えています。






当社の見解では、Dell Private Cloudは、分離型インフラストラクチャの原則と自動化主導型管理を組み合わせ、すでに多くの組織の信頼を得ているDellのPowerEdgeサーバーおよびDellストレージソリューション上で実行することで、この現実に対応できます。目的は、ハイパーバイザーとエコシステム全体にわたる独立した拡張、一貫性のあるワークフロー、長期的なオプションを実現することです。このアプローチは、お客様が最も重視する成果を維持しながら、ワークロードの多様化やプラットフォーム戦略が進化するにつれて浮き彫りになる制約を軽減します。

アーキテクチャの観点から見ると、この設計はDellのHCIシステムに直接基づいて構築されており、VxRailによって確立されたエンジニアリング規律とライフサイクルの一貫性を、個別に拡張可能なモデルに拡張します。過去10年間で、DellはVxRailを通じて強力なHCI基盤を確立し、お客様がVMware中心の環境で導入とアップグレードを標準化できるよう支援してきました。エンタープライズ要件の増加に伴い、Dellはそのモデル内でコンピューティングとストレージの間の固定的な結合を減らし、より広範な構成オプションを可能にしました。

さらにDellは、データセンター外の環境でも安全なオンボーディングやタッチレスの導入を確実に機能させる必要があった、エッジでの自動化から得た知見についても言及しています。Dellが共通の自動化レイヤーを重視する背景には、この経験があると当社は考えています。アーキテクチャの統合が進むにつれ、反復可能なワークフローを複数のサイトに展開できるようになるからです。

同時に、Dellはエコシステムに沿ったサービスを通じてプライベートクラウド ポートフォリオを拡大し、社内開発とターゲットを絞った買収を通じて機能を強化しました。Dell Private Cloudはこれらの取り組みの集約点であり、HCIでお客様に評価されてきた体系性を維持しつつ、自動化を拡張し、より幅広いエコシステムの展開をサポートします。

Dell Private Cloudの進化

 <p>HCI基盤 (VxRail)</p>	 <p>柔軟性を向上</p>	 <p>エコシステムの拡張</p>	 <p>自動化とライフサイクル管理の成熟度</p>	 <p>Dell Private Cloud</p>
<p>標準化された導入と予測可能なライフサイクル管理を実現する統合アプライアンス モデル</p>	<p>ワークロードニーズに合わせてリソースをより適切に調整するためのコンピューティングとストレージの分離</p>	<p>多様なアプリケーション環境 (VMware, Red Hat, Nutanix, Microsoft) をサポートする広範なスタックとプラットフォーム オプション</p>	<p>プロビジョニング、アップデート、コンプライアンス、2日目の運用のための反復可能なワークフロー</p>	<p>統合された自動化機能、HCIのシンプルさと拡張性とマルチハイパーバイザーの柔軟性を兼ね備えた分離型インフラストラクチャ</p>

市場の動向/お客様のニーズ

最新のプライベートクラウドに求められるもの

HyperFRAME Researchの観点から、プライベートクラウドのサービスは、日常業務を改善する成果と要件に基づいて評価される必要があります。

現代のプライベートクラウド プラットフォームは、以下のようなものである必要があります。

- 管理を別々に行ってサイロ化を生じさせることなく、変化するワークロード全体の一貫性をサポートする
- プライベートクラウドが長期にわたって管理可能かどうかを決定するのは2日目のアクティビティであるため、導入にとどまらない自動化を提供する
- ロックインや管理の断片化を回避しつつ、現在の継続性を確保する
- ヘルス チェック、構成検証、アラートを含む強力な可視性と監視を提供する
- インフラストラクチャを資産プールとして扱い、今日の役割を割り当てて、要件の変化に応じて後で再利用できるようにする

多くのアーキテクトにとって、インフラストラクチャが日々の労力とリスクを削減できるかどうかは非常に重要です。プライベートクラウドシステムにより、チームはカスタマイズされた統合作業から脱却し、検証済みで反復可能なワークフローに移行できます。ブループリント主導型のプロビジョニングにより、ばらつきが軽減され、準備が迅速化されます。繰り返し可能なアップデートパスにより、パッチ適用とアップグレードの制御が強化されます。手動での手順を減らすことで、エラーや再作業の可能性が低くなります。コンプライアンスの可視性を向上させることで、チームは問題を早期に把握し、需要に応じて導入が拡大しても予測可能性を維持することができます。プライベートクラウドは持続的な価値を提供します。規律と自動化により、運用の一貫性とサポート性を長期にわたって維持できます。

実証ポイントと検証: メトリックを 購入者の成果につなげる

定量化された検証は、単なる主張と実際の成果を切り分けるのに役立ちます。Dellは、技術検証と比較コンテンツを公開しており、準備までの時間や手動導入手順の削減など、Dell Private Cloudの参考資料として役立つ情報を提供しています。たとえば、Dellが公開し

ているメトリックによると、Dell Private Cloudは、ライセンス アプローチに応じて、HCIと比較して3年間の取得コストを最大44%削減できます。Dell Private Cloudは、手動導入プロセスを最大90%削減することもできます。

購入者の観点から見ると、重要なのは、これらのメトリックが実際の環境で何を意味するかということです。一般的に、手動での手順が少なくなると、構成ミスが少なくなり、導入の再作業が少なくなります。ワークロードの準備を迅速化することで、調達と本番使用の間のギャップを短縮できます。時間をかけて効率性とアーキテクチャの柔軟性を拡張することで、リソース比率の変化に応じて、投資とワークロードの需要の調整を改善できます。

HyperFRAME Researchでは、公開されているメトリックをシナリオ依存として扱い、実際のワークロード プロファイルに対して前提条件を検証することを推奨しています。方向性を示す信号は明確です。分離と強力な自動化を組み合わせたプライベートクラウド プラットフォームは、変更が生じた場合の摩擦を軽減し、信頼性を向上させるように設計されています。

要するに、混乱を伴わなくても効果的なモダナイゼーションは可能であるということです。最も強力なプログラムは、現在の機能を維持し、ワークロードのニーズ、リスク許容度、組織の準備状況に合わせて、プラットフォームの選択肢と反復可能なワークフローを段階的に拡張します。段階的なアプローチを採用することで、チームは安定した環境に加えて新しい機能を導入し、実証済みの結果と明確な準備状況に基づいて導入を拡大できます。

関連する考慮事項は、ハイパーバイザー戦略です。VMwareは依然として多くの組織にとって主要なプラットフォームですが、チームは時間の経過とともにより広範な適応性を計画しています。インフラストラクチャの意思決定者は、管理やサポートを断片化することなく、一貫性のある運用を維持するソリューションを優先する必要があります。

今後の展望: プライベートクラウドの成果は、将来にわたる一貫性によって定義される

プライベートクラウド プラットフォームの進化に伴い、自動化と、統制のとれた変更管理がベースラインの期待値となります。購入者は、継続的なライフサイクル管理、予測可能なアップデート、脆弱性をもたらすことなくリソースを拡張または転用する機能、さらに、プラットフォームが新しいインフラストラクチャへの投資とテクノロジー更新サイクルをいかに中断なしでサポートするかに重点を置く必要があります。

分離されたインフラストラクチャは、リソースとワークロードのニーズの間の調整を改善できますが、統合の複雑さが再び発生しないようにするには、明確な参照パターンと境界が必要です。最も強力なアプローチは、HCIでお客様に評価されてきたシンプルさを保ちながら、時間の経過に伴うワークロードの多様性を受け入れるというものです。

ハイパーバイザーとエコシステムの選択は、引き続き優先事項です。多くの企業は、短期的な継続性を維持しながら長期的なオプションを構築しています。プラットフォームの決定は、将来の適応性をどの程度維持できるかによって判断される傾向が強まります。同時に、選択肢の幅を広げることで断片化を招いてはなりません。購入者は、プロビジョニング、アップデート、コンプライアンス調整、サポート エスカレーション全体で一貫性を維持するのに、プライベートクラウドプラットフォームが役立つことを確認する必要があります。

最後に、公開および定量化された実証ポイントは方向性を示す指標として有用ですが、結果はワークロード プロファイル、規模、成熟度によって異なります。HyperFRAME Researchでは、変更管理要件、人員配置の制約、サービスレベルの期待値を反映した、的を絞った試験を通じて前提条件をテストすることを推奨しています。長期的に成功を収めるプラットフォームは、反復可能な成果を提供し、長期にわたって持続可能性を維持するプラットフォームです。

結論

プライベートクラウドの要件は変化しています。現在チームは、以前よりも多様なワークロード、速い変化のサイクル、厳しい経済的制約、そしてライフサイクルに対する期待に対応しています。これらはすべて、システムの安定性と予測可能性を維持しながら実行する必要があります。インフラストラクチャは、独立した拡張とアーキテクチャの独立性を実現しながら一貫性を提供する必要があります。

HyperFRAME Researchの分析に基づきます。Dell Private Cloud は、長年にわたるエンジニアリングの成熟度、お客様の知識、ポートフォリオの進化を反映しており、分離型の統合設計と統合された自動化を組み合わせて大規模に運用できます。インフラストラクチャを近代化する組織にとって、これは今日のプライベートクラウドの構築と管理方法に沿った、一貫した拡張性に優れた基盤を確立します。プライベートクラウドの成功は、進化するワークロードとAIイニシアティブを、複雑さを増すことなくサポートすることにかかっており、Dellのアプローチはその成果を実現するように設計されています。





HYPERFRAME RESEARCHについて:

HyperFRAME Researchは、ハイパースケールパブリッククラウドからメインフレームまで、グローバルなテクノロジーのあらゆる分野にわたって詳細に調査し、深い洞察を提供します。戦略的アドバイザリーサービス、カスタムリサーチレポート、カスタマイズされたコンサルティング契約、デジタルイベント、市場参入計画、メッセージテスト、およびリードジェネレーションプログラムを提供しています。

当社の業界アナリストは、業界全体のテクノロジーソリューション、ビジネスの課題、市場の動向、エンドユーザーの需要に関する厳格な定性評価と定量評価を専門としています。HyperFRAME Researchは、アナリストリレーションズ、プロダクト、マーケティングの各チームと緊密に連携し、貴社のソートリーダーシップを構築して拡大します。また、専門性で貴社の地位を確立し、ブランドと製品の認知度向上を図ります。読者、視聴者、リスナーの関心を引き付けるコンテンツを通じて、さまざまなチャンネルに貴社のメッセージを届けます。

HYPERFRAME RESEARCHへのお問い合わせ:

Steven Dickens

CEO兼プリンシパルアナリスト | HyperFRAME Research

Eメール アドレス:

steven.dickens@hyperframeresearch.com

電話番号:

+1 845 505 1678

X: [@StevenDickens3](#)

LinkedIn: [Steven Dickens](#)

BlueSky: [Steven Dickens](#)

寄稿者

Don Gentile

データプラットフォームおよびレジリエンス担当
常駐アナリスト

Steven Dickens

CEO兼プリンシパルアナリスト

お問い合わせ先

このレポートについてご意見やご質問がある場合は、こちらまでお問い合わせください。HyperFRAME Researchよりただちにご連絡させていただきます。

引用

認定報道機関およびアナリストは本資料を引用することができます。ただし、著者名、著者の役職、および「HyperFRAME Research」を明記のうえ引用する必要があります。報道機関およびアナリスト以外が引用する場合は、HyperFRAME Researchから事前に書面による許可を得る必要があります。

ライセンス

本書は、補足資料も含め、HyperFRAME Researchの所有となります。本出版物は、HyperFRAME Researchの書面による事前の許可なく、いかなる形式においても複製、配布、共有することはできません。

開示情報

HyperFRAME Researchは、本書で言及されている企業を含め、多くのハイテク企業に調査、分析、アドバイス、コンサルティングを提供しています。Moor Insights & Strategyのどの従業員も、本書で引用されている企業に対して持分を保有していません。

